

## 6. 次年度以降の取組内容

---

### 6.1 これまでの検討結果のまとめ

---

本町では、令和元年度より、エネルギー構造高度化・転換理解促進事業を活用して、エネルギービジョンの策定や実現可能性調査、実証実験を実施してきた。

各年度の実施内容は以下の①～③に示すとおりである。

#### ① 実施事業の基礎となる地域のエネルギービジョン策定（令和元年度）

本町の概況（人口・気候・産業等）を整理し、地域の特性や状況について把握しつつ、本町で有望な再エネとして「太陽エネルギー」「風力」「温泉熱」を位置付け、これらの再エネを活用した地場産業の振興を目指すことと結論づけた。

#### ② 再エネごとの実現可能性を踏まえた将来像の検討（令和2年度）

実現可能性調査を実施し、再エネ電源ごとの実現可能性を踏まえた導入スケジュールを設定し、再エネ利用の将来像及びロードマップを策定した。

導入スケジュールでは、短期的取組み（Step1）と中長期的取組み（Step2、Step3）とを区分し、Step1では本町の喫緊の課題とされるモビリティ機能の拡充に向けて、EV拠点を目指した再エネ活用型EV充電設備を導入することとした。

#### ③ 将来像(Step.1)を具体化するための実証実験（令和3年度）

再エネ利用の将来像に示すStep1の実現に向けて、デマンドタクシーに対する住民のニーズを把握し、最適な再エネ活用型EV充電設備や新しい交通システムを検討するための実証実験及び本町で有望な再エネとして位置付けられた太陽光、風力、温泉熱等を活用したプロジェクトの具体化に向けた実現可能性調査を行った。

令和2年度、令和3年度に行った各プロジェクトの検討結果を表6-1に示す。

表 6-1 これまでの検討結果のまとめ

プロジェクト	検討テーマ	令和2年度	令和3年度
公共施設における太陽光発電導入及び居住利便性向上・観光振興・防災性向上プロジェクト	町有施設及び農地・建設残土処分場への太陽光発電設備の導入	公共施設における太陽光発電設備を導入する施設として、保健センター、本庄小学校、社会福祉協議会（泊泉苑）の3施設が選定された。	－
		EV 充電拠点として庁舎北側飛地にカーポートと一体型の太陽光発電設備を導入し、複数のEVを駐車及び充電できる拠点を整備する。	再エネ活用型EV充電設備の整備に向けた調査・設計を実施。
	太陽光発電の導入に向けたEV活用デマンドモビリティシステム	コミュニティバスに代わる地域に合った新しい交通システムとしてEVデマンドタクシーの導入が有効。	EV活用したデマンドタクシー実証実験（9～10月）を実施。 令和4年4月1日から本格運行を開始予定。
大規模太陽光発電と風力発電を主とした地域新電力会社による地域産業活性化と地域循環共生圏構築プロジェクト	大規模太陽光発電と風力発電を主電源とした地域新電力事業の検討	<u>風力発電事業の検討</u> 風況観測より、高度90m換算で5.98m/sの年平均風速が見込まれるものの、民間事業者による売電事業としての活用可能性は現時点では低い。	<u>電力需要量調査と地域新電力の事業化可能性検討</u> 電力需要量調査より、町内の主要な公共施設や一般家庭などの電力使用の状況を整理分析。 地域新電力事業は事業可能性（収益性）がみられたが、地域内での再エネ発電の促進によって、より収益性が高くなる。
温泉熱活用等による特産品の創出と観光振興に向けた地域循環実証プロジェクト	本町に適した生産品目の設定、生産段階で必要な環境条件やエネルギーシステム、段階的な事業化に向けた検討	<u>水産養殖の検討</u> 生産品目の生産段階において再エネ利用を進めることは現状難しい。 泉源の湧出温度が約28℃と低いため、飼育水の加温は可能だが、冷却はできない。温泉水にヒ素が含まれるため飼育水には使えない。	<u>施設園芸の検討</u> 生産品目としてキノコとイチゴの可能性が示唆されたが、温泉熱の温度が低いため熱源としての利用が難しい。 太陽光発電の利用も現時点では課題が多く、また再エネ利用の前に菌床栽培の経験がある事業者を呼び込み、その指導のもと進めることが必要。

## 6.2 次年度以降の取組内容

### 6.2.1 令和3年度の検討結果を踏まえた今後の方向性

令和3年度の検討結果を踏まえた今後の方向性を表6-2に示す。

表6-2 令和3年度の検討結果を踏まえた今後の方向性

令和3年度プロジェクト	令和3年度の結果を踏まえた今後の予定
【PJ1】 太陽光発電設備の導入に向けたEV活用 デマンドモビリティシステム実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EV活用デマンドタクシーの充電拠点として、再エネ活用型EV充電設備を整備。</li> <li>● 新たな公共施設の再エネ電源化の検討。</li> </ul>
【PJ2】 大規模太陽光発電と風力発電を主電源 とした地域新電力事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設残土処分場の跡地利用の目途がたった段階で、メガソーラー整備に向けた検討に進むこととする。また、メガソーラーの整備と併せて地域新電力会社の立ち上げを改めて検討する。</li> <li>● それまでは公共施設を含めた小規模な太陽光発電等の導入を推進する。</li> </ul>
【PJ3】 温泉熱等の新たな利活用策検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存の漁港や耕作地などの漁業・農業分野における再エネ活用を検討し、エネルギーが再エネに転換されることによる再エネ理解促進・転換、産業振興・経営の安定化について検討を行う。</li> </ul>

来年度以降、EVデマンドタクシーの充電拠点として、再エネ活用型EV充電設備を導入するとともに、新交通システム（EVデマンドタクシー）の本格運用を開始する。

また、再エネ利用の将来像に示すStep1実現に目途が立ったことを受け、新たにStep2の実現に向けた検討（実現可能性調査）を開始する（図6-1参照）。



図6-1 再エネ利用の将来像と次年度以降の予定

## 6.2.2 令和4年度の実施内容（案）

### (1) 充電拠点の整備

令和4年4月1日から運行を予定している EV デマンドタクシーの充電拠点として太陽光発電と蓄電池を活用した「再エネ活用型 EV 充電設備」を整備する。

この「再エネ活用型 EV 充電設備」は、再エネ利用の将来像及びロードマップに示すエネルギーの使い方・意識を変える仕組みづくりの一つである EV デマンドタクシーの充電拠点として位置付けられるものである。

EV デマンドタクシーの運行内容は前述の 2.9.3 に、充電拠点の整備内容は 2.9.4 に示すとおりである。

### (2) 実現可能性調査

再エネ利用の将来像の Step1 に目途が立ったことを受け、新たに Step2 の実現に向けた検討を開始し、本町におけるエネルギーの使い方・意識を変える仕組みづくりを継続する。

令和4年度に予定している実現可能性調査（PJ1～PJ3）は以下のとおりである。

#### 【PJ1】 公共施設の再エネ電源化検討

地域の更なる再エネ理解促進・転換へとつなげるため、公共施設の再エネ電源化を検討する。対象施設のうち筒川地区コミュニティセンター（仮称）については、別途事業にて詳細設計を実施予定のため、その結果を活用した再エネ導入設備の検討を行う。

#### 【PJ2】 EV 活用デマンドタクシーの効果検証及び利活用検討

EV 活用デマンドタクシーの利用状況等を把握し、利便性向上を目指した運行条件や予約方法の検証、再エネ利用率の向上を目指した充電パターンの検証等を行う。また、観光利用や地場産業との連携など、デマンドタクシーが運行することによって新たに創出することができる地域経済への波及効果についても検討を行う。

#### 【PJ3】 伊根町内における再エネ利用拡大に向けた事前検討

漁業・農業分野における再エネ活用について新たな視点から再検討を行う。具体には、既存の漁港や耕作地などの漁業・農業分野における再エネ活用を検討し、エネルギーが再エネに転換されることによる再エネ理解促進・転換、産業振興・経営の安定化について検討を行う。